

地球や環境、人にやさしい循環型社会を目指して 「排出ゼロシステム技術」の確立へ!!



代表者/代表取締役 佐々木 智一 氏

舞台となり、西陣へ薬品商社が営業活動して「染料」や「顔料」を納めるというのが一般的でした。その中で先代社長が選択した市場参入は「いとへん」への市場ではなく、電子部品関連への市場参入でした。

～なぜ、「電子部品」への市場参入を 決断されたのでしょうか～

当社が薬品の卸としては後発組であり、「いとへん」の産業に参入する余地はほとんど残されていなかったという事情がありました。他方、当時の京都では電子部品業界はベンチャー企業がひしめく黎明期を迎えたばかりで、薬品業界との接点をなかなか見出せなかった電子部品業界と、電子部品業界の将来性を確信していた当社との利害が一致し、当社から薬品を提供するようになったのです。この決断が、のちに高度成長期を迎え電子部品業界の大きな飛躍を受けて、当社も大きな成長を遂げたわけですが、それは単なる直感ではなく先代の確かな時代を読み解く力とともに、確かな根拠に基づく鋭い洞察力があったことは間違いありません。

～確かな根拠とは一体何だったのでしょうか～

当時、当社は薬品の卸会社として、大学等の研究機関、研究室に出入りし、薬品の供給を行っていました。営業で研究室へ出入りする中、ただ単に薬品を届けるだけでなく、届けた営業マンが研究室の先生から最新技術の動向や将来有望な技術等について情報収集し、会社へフィードバックするという、まさしく「現場力」が発揮されたからです。今後、電子部品関連産業が大きく成長するという情報を見極め、将来の成長性に確信をもっていたからこそ、電子部品産業へ参入する決断ができたのです。

ササキが取り組む環境ビジネスとは

～薬品リサイクルで環境を守る～

2007年から本格的に研究開発を立ち上げて、2009年から環境事業課として事業をスタートさせました。「薬品リサイクルで産業廃棄物を出さない＝環境を守る」という発想に立ち、お客様に提供した薬品について不純物の除去等により再生したものをお客様にお返しして利用していただくことを目指しました。まず私たちが取

お客様の声ひとすじに、化学薬品の3R(低減・再使用・再循環)技術の開発に挑戦。どうしたら、より少ない薬品で効果を発揮できるか?どうすれば、化学薬品の廃液をリサイクルできるか?そこに込められた思いとは?「美しい川や海を次世代の子どもたちへ」「金属回収技術」と「薬品再生技術」のフロントランナーとして走り続け、果敢にも「世界のササキへ」と飛躍を誓う佐々木化学薬品株式会社の佐々木社長にお話を伺った。

先見の明は現場から

1970年当初の「ケミカル」の世界では、いわゆる「いとへん」の世界が

り組んだのは銅の酸化被膜除去剤の完全リサイクル技術の開発でした。従来なら使用後は銅や汚れが溶液の中に溶け込んでいたため産業廃棄物として廃棄せざるを得ませんでしたが、当社の技術で銅や不純物を液中から除去することに成功し、改良に改良を重ねて新液に近いパフォーマンスを達成することができ国際特許取得まで行いました。現在では、薬品リサイクルのレベルをさらに高めながら、「めっきの前処理」や「表面処理関係」などに使用していただ



いております。
銅の酸化被膜の除去剤「S-800」は「中性」であり、非常に扱いやすいという特性があります。従来の塩酸とか硫酸でも同様に銅の酸化錆をとれますが、錆の部分以外に基材部分まで削り取るという大きな課題がありま

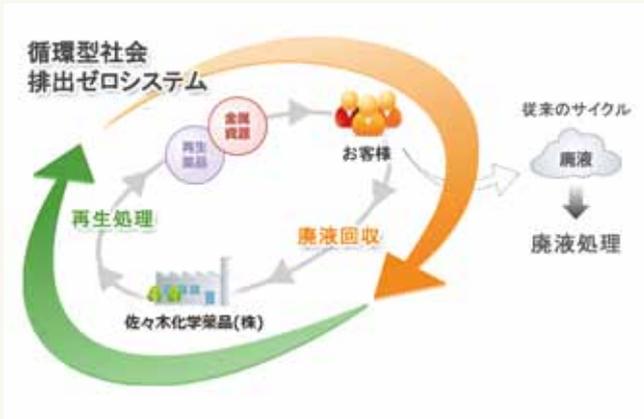


最近開発した硝酸不使用溶接焼け除去剤

した。しかし、本製品の場合、中性であることから基材部分へのダメージをほぼ無くすることができます。さらに一歩進んで使用した薬液を「廃棄してしまう」のではなく、再度、液を回収して再生するというリサイクルシステムまで構築しました。

～廃液もリサイクルすれば宝の山～

当社では、金属表面を加工する製品が多いため、少量ながらも薬液中に金属がたまることが多く、薬品リサイクルで培った金属回収技術を利用して、あと何年かすれば枯渇してしまうような有用な金属であるレアメタル、レアアースのほか、市場で非常に価値のある貴金属などを金メッキの剥離剤や銀メッキの剥離剤といったも



循環型社会排出ゼロシステム概略図

のから回収することに挑戦しています。また、現在では、さらに機能性高分子の世界までステージを広げて、もっと様々なことができるのではないかと研究開発に取り組んでいます。

社内改革

～倉庫は見せるモノ～

当社では、大手企業が経験やカンだけに頼らず、科学的な理論に基づいてQC活動を展開していることに着目し、大手企業で活躍されていたOBの方をお迎えして、マーケティング・商品開発・生産現場における改善活動について指導をいただいています。例えば、滋賀県に当社最大の物流施設(倉庫)があり、2005年から倉庫内の導線を短くし、置き場スペースの効率化を図るなど物流改善に取り組んできました。通常、倉庫はお客様に見せない部門となっていますが、当社では逆に「見せる」倉庫としてお客様に公開して見学の対応までしています。この取り組みが評価された実例についてご紹介しますと、某半導体企業への薬品納入会社として当社以外に17社ありましたが、同企業の方針により仕入先の15社が当社に一本化されたことがありました。結果、同企業への売上は3倍に増えたわけですが、当社が選ばれたのは、倉庫を直接

お問い合わせ先

京都府中小企業技術センター 企画連携課 企画・情報担当 TEL:075-315-8635 FAX:075-315-9497 E-mail:kikaku@mtc.pref.kyoto.lg.jp

見ていただいて、現場での荷扱いが安心であるということを確認していただいたのが決め手でした。

～女子力でマナー向上～

「5S」を推進する中で、「マナー」に取り組んでいます。特に「しつけ」の部分で「あいさつ」や「マナー」に関して総務の女性が社内社員教育を担当しています。

当初は、来客対応のために総務の女性が外部で研修を受けて習得していったものですが、お客様から総務の対応について非常に好評を博したこともあり、社員教育も担当するようになりました。実際、私自身も彼女たちから、電話の切り方など厳しく指導を受けているぐらいですから、その徹底ぶりがわかってもらえると思います。研修内容は、電話の取り方から名刺交換、手紙の書き方、敬語の使い方に至るまで、6年間、年間20回程度実施しています。

70周年に向けてのベンチャー宣言

～日本の佐々木から世界のササキへ～

当社は、世界的にも数少ない、専門的な技術、開発力、供給力を兼ね備えた化学薬品の専門商社という事実をぜひ皆様にご存知いただきたいと思ひます。今日、生産拠点の海外進出が活発化していますが、同時に当社の役割も国内から海外へと求められています。すでにアジア諸国に向けて、きめ細かな化学薬品の供給体制を整えつつあり、さらにアメリカへの進出など、「世界のササキ」へ大きな飛躍を誓って日々研鑽してまいります。

Company Data

佐々木化学薬品株式会社

代表者/代表取締役/佐々木 智一
所在地/〒607-8225
京都市山科区勤修寺西北出町10
設立/1958年
資本金/6,000万円
従業員/79人
事業内容/試薬および化学工業薬品の開発・製造販売



京都リサーチパークは、お客さまのニーズに合わせてきめ細やかに対応いたします。

- 一室(50~100㎡)から様々な用途に応じてご用意。
- 排気や給排水、電気容量などのご要望に細やかに対応。
- 工事や消防届など、専任の担当者が丁寧にサポート。
- 事務所スペース、倉庫スペースを含め、将来の規模拡張にも柔軟に対応。

京都駅から一駅の都心型、KRPのレンタル実験研究スペース。

都心好立地

京都駅から一駅5分、
タクシー10分程度

充実の共有スペース

総合受付、ロビー、
緑地スペース、シャワーなど

24時間有人監視

管理センター
(地区内2ヶ所)

駐車場(有料)

駐車場
約700台

ホームページ

<http://www.krp.co.jp/lab0>

お問合せ先

075-315-9333
京都リサーチパーク(株)営業部

京都リサーチパーク株式会社

〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134